

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520579

研究課題名（和文）現代俳句の国際化：日本の現代俳句文学・文化の学際研究の世界への発信

研究課題名（英文）Internationalizing Gendai Haiku: Research to Promote the International

Academic Recognition of Contemporary Japanese Haiku Culture & Literature

研究代表者

ギルバート リチャード（GILBERT RICHARD）

熊本大学・文学部・准教授

研究者番号：30404320

研究成果の概要（和文）：現代日本の主要な現代俳人、金子兜太、池田澄子、前田弘、大井恒行、森須蘭、高遠朱音の6名にインタビューを行い、そのインタビューを批評理論を用いて分析すると共に、インタビューおよび作品の英訳を行った。そしてその研究成果を招待講演を含む学会発表や4巻本の学術書の出版によって発表した。また、本研究は平成24年度採択科学研究費補助金基盤研究（C）「現代俳句の有用性：日本の現代俳句研究の国際化と英語教育における活用」（課題番号：24520628、研究代表者 Richard Gilbert）によって発展継続される。

研究成果の概要（英文）：Interviews with 6 major Japanese gendai haiku poets were undertaken, and were analyzed in terms of contemporary literary criticism. They were translated, and published in academic presentations (including an invited lecture) and published in four volumes of academic books. Furthermore, this study will be continued as “Kakenhi Scientific Research (C) (General) of 2012,” entitled “The Relevance of gendaihaiku: The Internationalization of Japanese gendaihaiku Studies and Research-applications in the Field of English-language Education” (Number: 24520628, Leader: Richard Gilbert).

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度	0	0	0
年度	0	0	0
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：異文化コミュニケーション

1. 研究開始当初の背景

海外の日本の俳句についての研究はまだ浅く、戦後初期の俳句紹介者である R. H. Blyth の Haiku, 4Vols. (1949-1952) や Harold G. Henderson の An introduction to Haiku. (1958) の俳句観をいまだ引きずっている現

状にある。そのため新たな文学批評理論を用いた分析も少なく、また、研究対象となるキャンオンも芭蕉などの古典俳句や明治期の作品に留まっているという状態である。そしてまた、実際の日本の現代俳人の生の声が欠けているのも問題である。この状況は2000年代の現在になってもいまだ続いている。日本

の現代俳句を積極的に、そして学術的に世界に発信することでBlythやHenderson流の硬直した俳句観を打破する必要がある。また日本の現代俳句を環境文学批評(ecocriticism)や、認知言語学等を用いた文学的言語学(literary linguistics)などの新しい文学理論で新たに見つめ直すことによってもその価値を正しく証明する必要がある。また文化的・歴史的・伝記的背景を踏まえつつ、日本の現代俳人の生の声をマルチメディアを用いて発信し、よりよい異文化交流のための道筋を作らなければならない。

2. 研究の目的

本研究の目的は現代俳句の学術的有用性と価値を包括的に提示することと、専門的な学術研究のための基礎資料及び研究データを作成することである。基礎資料及び研究データに関しては、12名の現代俳句作家の作品のアンソロジー(日本語と英訳)、作家の伝記、インタビュー(映像付き)、研究論文、文化的背景に関する情報、参考文献等を作成し、DVDやオンラインアーカイブで世界に発信する。学術的な有用性の宣揚に関しては、18年度科研費研究による知見を活かして、現代俳句の新しい文学理論(例えば現代俳句における「切れ」と「間」、文学と環境についての文学理論など)を援用して研究を進める。国内外の学会や雑誌、講演会を利用して、日本の現代俳句の幅広い魅力と世界共通の普遍的な文学性を世界に伝えていきたい。

具体的には、本研究では日本の6人の現代俳句作家の研究を印刷媒体およびオンライン上の双方によって提示する。さらに、新しい学際的な観点からの文学批評、例えば現代俳句における「切れ」と「間」の関係を環境文学批評という関連領域に応用するというアプローチを試みる。さらにまた、言語学的文体論や認知言語学の新しい考えを援用して新たな俳句文学批評を構築していきたい。このような観点からの研究成果は、国内外の学会で論文として発表する予定である。前回の科研費研究の活動として行ったように、アメリカ等海外の大学で、セミナーや講演会を開催し積極的に俳句の世界性を訴えていく。そして最終的に成果を学術出版する。

3. 研究の方法

(1)CONTENT: 俳句作家の思想・哲学及び理論を信頼性の高い英語で訳し、俳句の英訳も逐語訳ではなく翻訳自体が詩であるような創造的な翻訳を行うこと

(2)CONTEXT: 俳句およびその作家を取り巻く日本の社会的・文化的・個人的背景を重視し、

異文化の観点から英文の情報を提示する。

(3)ORGANIZATION: 以上の二点のどちらか一方に偏りすぎず、バランスの取れた研究姿勢・体制を維持すること

(4)MEDIA/DATABASE: a)マルチメディアの効果的な活用 b)アーカイブへの国際的なアクセスを容易にすること c)複合的な形態でのアウトプット(例:単行本、学術雑誌、PDF、flash video、ウェブサイト、DVDおよびaudio CD/downloadable readingsなど)

(5)CREATIVE APPROACH: a)現代俳句の普遍的な文学性を明らかにし、世界的な学術研究の対象となることを示す b)最近の俳句理論を踏まえ、言語学的文体論や認知言語学の知見を援用して新しい俳句理論の構築する c)学際的なアプローチで文学と環境の領域において現代俳句批評を実践する
そのために、以下の手順で研究を遂行する:

- ①6名以上の現代俳句作家にインタビューを行い、クオリティの高い30分の動画を作成する。
- ②テープ起こし・翻訳チームの編成
- ③インタビューの字幕翻訳の作成、俳句・散文作品の翻訳
- ④社会的・文化的文脈および伝記的背景についての注釈の作成
- ⑤国内外の学会および講演会での研究成果の発信
- ⑥マルチメディアにおける研究成果の出版
- ⑦二ヶ国語による研究論文および詳細な注釈付きの現代俳句のアンソロジーの出版

先の研究の経験から、その専門性ゆえに30分のインタビューのテープ起こしには約10時間かかり、その英訳の下訳には約20時間かかることが分かった。よって、各30分のインタビューの英語訳を仕上げるには30時間かかり、また、動画に合わせて英語字幕を付け、圧縮し、インターネット上に公開するには、場合により、さらに10~20時間かかることが予測される。E項目に関しては初年度中に研究成果の海外での学会発表と、1回以上の大学での招待講演を行う。F項目にあるようなマルチメディアによる発表と並行して学術雑誌での論文発表も行う。また、上述のインタビュー動画をウェブサイト<www.gendaihaiku.com>上にて公開する。そして最終的には成果を学術書として出版する。

4. 研究成果

(1)主な成果として、6人の俳人へのインタビ

ューの実施、そしてそれに基づく8本の論文と、1回の招待講演を含む3回の学会発表、そして何より4回の学術書の発表が挙げられる。

(2)平成21年度には、現代俳句協会会長である宇多喜代子のインタビューの字幕翻訳を行った。また、新たな翻訳チームで現代俳句協会名誉会長金子兜太の俳句および俳論の翻訳を行った。また8本の論文(単著4本・共著4本、うちファースト2本)を発表し、国際学会での発表を1回行った。また、前回の科研費研究の成果の一つである著書 *Poems of Consciousness* (単著・DVD-ROM付き、302pp)がHaiku Society of Americaの授与する賞であるMildred Kanterman Special Award for Haiku Criticism and Theory (2009)を受賞した。

(3)平成22年度は、イリノイ大学、シカゴ大学、ナローパ大学、そしてUCLAで資料調査を行った。また、金子兜太(現代俳句協会名誉会長)に個人インタビューを、前田弘、池田澄子、川名つぎお、大井恒行、森須蘭、高遠朱音に座談会形式のインタビューを行った。そして金子兜太を中心にインタビュー、作品、年譜、講演、エッセイ、自伝などを翻訳し、4巻本の学術書の出版準備を整えた。

(4)平成23年度は、研究成果をHaiku North America 国際大会(シアトル)における招待講演(Higginson Memorial Lecture)として“Social Consciousness and the Poet’s Stance in 21st Century Haiku: From Kaneko Tohta to the Present”という題で発表した。また項目5に関しては、4巻本の研究書 [1]Kaneko Tohta - *Ikimonofuei: Poetic Composition on Living Things* (2011年7月, ISBN 978-1-936848-01-0); [2] *The Future of Haiku: An Interview with Kaneko Tohta* (2011年8月, ISBN 978-1-936848-02-7); [3] *Kaneko Tohta: Haiku & Commentary, Part One* (印刷中, ISBN 978-1-936848-03-4); [4] *Kaneko Tohta: Haiku & Commentary, Part Two* (印刷中, ISBN 978-1-936848-04-1)。にまとめて出版した。

(5)本研究で出版した学術書は北米ハイク協会(HNA)賞の商品にも採用され、またJapan Timesにも書評が載ったほどのインパクトを海外のハイク愛好者の間にもたらした。

(6)また、本研究の発展的な研究として、平成24年度採択科学研究費補助金 基盤研究(C)「現代俳句の有用性:日本の現代俳句

研究の国際化と英語教育における活用」(研究代表者:Richard Gilbert 課題番号24520628)が採択された。新しく採択された科研費研究では、この研究成果を元にして有用な英語教育教材を作成するとともに、日本語・英語の二言語による日本文学を用いて英語力と自文化・異文化理解を促進することを目的とする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 8 件)

① “MiWIT: Integrated ESL/EFL Text Analysis Tools for Content Creation in MS Word.” 松野了二, Richard Gilbert, 松尾かな子. *Proceedings of World Conference on E-Learning in Corporate, Government, Healthcare, and Higher Education* 2010. 査読なし pp. 255-260. Proceedings.

② Richard Gilbert, “Women & Postwar Gendai Haiku: From Invisibility to Leadership.” Richard Gilbert, 齋木愛子, 伊東裕起 共著 査読有 *Simply Haiku Journal*, 7.4, 査読有り 2009.

③ Richard Gilbert, Robert D. Wilson, A Brilliant Literature: Part 2. *Simply Haiku Journal* 17.1. 査読有り 2009. オンラインジャーナル.

④ Richard Gilbert, Six Years of Simply Haiku: Retrospective Selections 2003-2008, in Eleven Themes. *Simply Haiku Journal*. 7.1. 査読有り 2009. オンラインジャーナル.

⑤ Richard Gilbert, Judge and Editor, Haiku Section, *Simply Haiku Journal*. *Simply Haiku Journal*. 7.1. 査読有り 2009. オンラインジャーナル.

⑥ Richard Gilbert, As a poetics: The Scorpion Prize (article and selector)1. *Roadrunner Quarterly Online Journal*, IX:6. 査読無し, 2009. オンラインジャーナル.

⑦ Richard Gilbert, 伊東裕起, Kaneko Tota’s ‘fluorescent squid’: Interpretive Translation and Commentary. *Roadrunner Quarterly Online Journal*, IIX:2. 査読無し 2009. オンライン

ンジャーナル.

⑧Richard Gilbert, Revelations Unedited Haiku - Take Five Brilliant Corners. *Frogpond Journal of Haiku*. 32 : 3. 査読有り 2009. pp.37-45.

[学会発表] (計 3 件)

①Richard Gilbert, "Social Consciousness and the Poet's Stance in 21st Century Haiku: From Kaneko Tohta to the Present" Haiku North America 招待講演 2011年8月7日 シアトル、(米国)

② Ryoji MATSUNO, Richard GILBERT, Kanako MATSUO, "MiWIT: Integrated ESL/EFL Text Analysis Tools for Content Creation in MS Word." AACE: Association for the Advancement of Computing in Education. 2010. 10.18-22. E-LEARN 2010, Orlando, (Florida)

③Richard Gilbert, "Babel of Angels and Demons: The Significance of Creative Misinterpretation in Cross-cultural English-Haiku Studies". 15th International Association for Intercultural Communication Studies (IAICS), 2009, 9, 9. 熊本学園大学 (熊本)

[図書] (計 4 件)

①Richard Gilbert, et. al. *Kaneko Tohta: Haiku & Commentary, Part Two*. Red Moon Press. VA, USA. (印刷中 2012, ISBN 978-1-936848-04-1).

②Richard Gilbert, et. al. *Kaneko Tohta: Haiku & Commentary, Part One*. Red Moon Press. VA, USA. (印刷中 2012, ISBN 978-1-936848-03-4);

③Richard Gilbert, et. al. *The Future of Haiku: An Interview with Kaneko Tohta*. Red Moon Press. VA, USA. 2011. 137 頁

④Richard Gilbert, et. al. *Kaneko Tohta - Ikimonofuei: Poetic Composition on Living Things*. Red Moon Press. VA, USA. 2011. 91 頁

[その他]

ホームページ等

<http://www.gendaihaiku.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ギルバート リチャード (GILBERT RICHARD)

熊本大学・文学部・教授

研究者番号: 30404320

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

堀 正広 (HORI MASAHIRO)

熊本学園大学・外国語学部・教授

研究者番号: 20238778

(4) 研究協力者

伊東 裕起 (ITO YUKI)

熊本学園大学・非常勤講師

研究者番号: 70617448

デイヴィッド・オスマン (DAVID OSTMAN)

熊本県立大学・兼任講師

研究者番号: なし

フランツ 幸雲 (FRANZ KOUN)

アラスカ大学アンカレッジ校・講師

研究者番号: なし